



トンボはドコまで飛ぶかフォーラムとの11年間

東京ガス（株）環境エネルギー館
嶋野 弥名子

1998年11月の開館以来、累計206万人が来館（2014年3月現在）している環境エネルギー館には、人気のコーナーがいくつもあります。なかでも屋上ビオトープは、草地でバッタを追いかけたり、池のメダカを覗いたり、季節の花を愛でたりと、四季折々の変化が楽しめるため、老若男女を問わず、とても人気があります。

草地、池を中心とした約1300m²のビオトープには竣工時、植物は木本類、草本類各75種を植栽し、これまでに176種が移入され、一方、生き物は昆虫類373種、鳥類15種が確認されています（2011年3月時点）。開館から15年間で動植物層はとても豊かになり、屋上という隔離された空間とは思えないほど、立派なビオトープへと成長を遂げてきました。

開館当初、屋上にビオトープを設置している施設は全国的にも稀であり、特に学習のフィールドとしての活用を目的とした環境学習施設は皆無だったと言つても過言ではありません。そのため、日常の管理はもとより、中長期の管理においても、外部識者による植生調査や調査会社による水辺環境の現況評価を反映させるなど、試行錯誤で行つてきました。これまで搖るぎない軸として大切にしてきたことは、来館者の安全確保はもちろん、インター・プリターとして

「どのように動植物と向き合い、インター・プリテーションの素材として活用するのか」という視点です。単に植物を剪定するだけでなく、「一般的に害虫といわれるものも観察の対象として捉え、生き物同士のつながりを伝える素材とする」と考え、インター・プリター自身も動植物に対する理解や知識を研鑽してきました。

そのような15年間のなかで、当初から「地域に開かれた館」を目指してきた当館にとって、この「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」に結成時から参画できたことはエコロジカルネットワークだけでなく、人的ネットワークの点からも学び多きものでした。インター・プリターにとっては、トンボをより理解するためのよき学びの場であり、その学びを来館者へのよりよいインター・プリテーションに活かしてきたことは大きいなる成果です。また、近隣の水辺空間や緑地等、この地域全体に視野を広げ持つことで、屋上ビオトープの京浜臨海部における存在価値を再認識する絶好の機会となりました。

これまで15年4ヶ月の間、トンボはドコまで飛ぶかフォーラム関係者のみなさまをはじめ、多くの地域のみなさまに親しみ、愛していただきましたことを心より感謝申し上げます。



京浜の森 トンボ図鑑

オオシオカラトンボ♂

シオカラトンボに似ていますが一回り大きく青みが強いトンボです。シオカラトンボよりもやや閉鎖的な環境を好みます。横浜では5月から9月まで見ることができます。



チョウトンボ♂

独特的な紫紺色の翅を持つ大変美しいトンボです。近年横浜でよく見られるようになっています。横浜では6月中旬から9月まで見ることができます。



クロスジギンヤンマ♂

ギンヤンマとよく似ていますが胸に2本の黒いジグザグ模様があります。腹部は黒く青い斑紋が並びます。ギンヤンマよりも閉鎖的な環境を好みます。横浜では4月初旬から9月まで見ることができます。



シオカラトンボ♂

京浜臨海部では最も普通に見られる種のひとつです。成熟した♂は体に白い粉を吹きます。横浜では4月から10月初旬まで見ることができます。



ショウジョウトンボ♂

京浜臨海部のビオトープではどこでも見られるトンボです。複眼から腹部先端まで真っ赤になります。横浜では4月中旬から9月まで見ることができます。



アキアカネ♂

近年全国的に数を減らしているアカトンボの一一種です。横浜では6月中旬頃羽化していましたが京浜臨海部では8月に羽化している個体が数多く確認されています。横浜では6月から12月まで見ることができます。



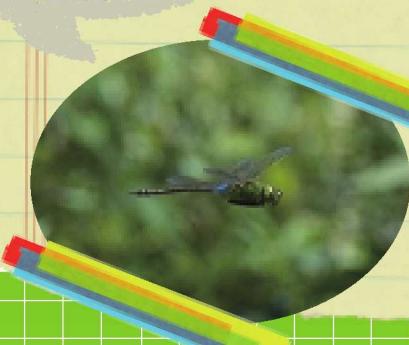
ウスバキトンボ♀

横浜では冬を越すことができず、毎年南方から世代を繰り返しながら北上してくるトンボです。ちょうどどこまで飛ぶか調査の頃、群れ飛ぶ姿が見られます。



ギンヤンマ♂

水面が開けた明るい大きな池を好みます。岸沿いに飛びます。ビオトープでも頻繁に観察できます。横浜では4月中旬から10月まで見ることができます。



解説・写真 梅田孝